

東京外国語大学大学院地域文化研究科
21世紀COEプログラム
「史資料ハブ地域文化研究拠点」

〈オーラル・アーカイヴ班〉
聞き取り調査資料集

中国編

目 録

2007年3月

東京外国語大学大学院地域文化研究科
21世紀COEプログラム
「史資料ハブ地域文化研究拠点」

<オーラル・アーカイヴ班>
聞き取り調査資料集

中国編
(04-Z-CJ)

2004年（採録）

まえがき

本資料は、2002年度から2006年度にかけて実施された東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」に属する5つの研究班のひとつである〈オーラル・アーカイヴ班〉による聞き取り調査資料集『中国編(04-Z-CJ)』である。

オーラル・アーカイヴ班による聞き取り調査は、本21世紀COEプログラム実施年度期間に、当班の班員、PD 研究員、大学院生および研究協力者によって実施された。調査実施地域は、タイ、カンボジア、ベトナム、ネパール、中国、日本である。

聞き取り調査は、テープレコーダー、ビデオ、MDレコーダー等の機器を用いて行われ、その録音テープ、ビデオテープ、MD等はこの資料集とともに東京外国語大学・仮オーラル・アーカイヴに保管されている。

中国での聞き取り調査は、張 延紅 (zhang yanhong 東京外国語大学 大学院 博士 後期課程) によって行われた。そのテーマは「中国少数民族教育を受けた人々 (経験者) からの聞き取り調査」である。

多言語、多文化教育研究が盛んに行われ、多文化教育が積極的に行われている現在、少数民族が大いに存在し、マジョリティとマイノリティの共存共栄を提唱している中国では「中国少数民族教育」という中国独自のマイノリティ教育が盛んに行われている。

また制度的な民族差別は完全に廃止され、自然同化のかたちで民族の融合、さらには中華民族ないし中国人という共同体への統合が進展している。そして、こうした過程が各民族の経済発展によって最大限に促進されているのが現状である。

そんな中、少数民族教育を受けている少数民族の人々は現行の少数民族政策をどのように受け止めているのか、また少数民族教育の現状をどのように考えているのだろうか。

この調査はこのような契機で始められた。

本資料『中国編(04-Z-CJ)』は、5人の中国人(民族:朝鮮族)に対する張による聞き取り調査のうち一部分を中国語、日本語文字に起こしたものである。

聞き取り調査概要

1. 話者: 金氏、李氏、魯氏、朴氏等
2. 聞き手: 張 延紅
3. 年月日: 2004年9月~2004年9月
4. 場所: 中国、延吉市
5. 使用言語: 朝鮮語 (通訳: 不使用)
6. 録音媒体: テープ